

役員退任挨拶

楽しく充実していた県医師会での活動

前沖縄県医師会 常任理事

(前琉球大学病院 院長) 大屋 祐輔



このたび、本年6月をもちまして常任理事を退任いたしました。理事、常任理事として計6年間役員を務める機会をいただきました。歴代会長をはじめ、役員・事務局の皆様から賜りましたご支援に、心より御礼申し上げます。

退任挨拶では、私と沖縄県医師会とのつながりを中心に記載したいと思います。沖縄県医師会とのご縁は、私が2002年に沖縄へ赴任した折に始まります。当時は「長寿崩壊・26ショック」と呼ばれる状況であり、生活習慣病や循環器疾患を専門としていた私に市民公開講座等、その対策への参画をご依頼いただきました。そこから、私の沖縄の「長寿復活」に向けた医師としての歩みが始まったと感じております。

その後、当副会長であった玉城信光先生にお声かけいただき、医療イノベーションに関する会議・勉強会に参加しました。最新の知見を得られただけでなく、志を同じくする仲間と出会い、以後現在に至るまで交流を続けています。医療シミュレーション機器の開発や医工連携人材の育成へと発展していきました。現在もその仲間と、新時代の沖縄の医療イノベーションを語り会っており、頭の体操とリフレッシュになっています。

私にとっての大きな転機となったのは、地域医療再生基金による「おきなわクリニカルシミュレーションセンター事業」です。当時の宮城信雄会長、玉城信光副会長、宮里達也県保健医療部長らのご支援のもと、沖縄の特色を生かした新たな医療教育の拠点作りに参画させていただきました。沖縄は、先進的な医師育成の伝統を有しています。県立中部病院で始まった北

米型臨床研修は全国のモデルで、その伝統は沖縄全体に広がっています。その先進性を引き継ぐものとして、クリニカルシミュレーション教育の導入とシミュレーションセンターの建設を考えました。当時、まだ国内では同様のセンターがなく、右も左もわからない状況の中、新しい分野に挑戦する機会を与えていただいたことは、今振り返っても感謝の念に堪えません。結果として、多くの先生方や関係機関のご理解とご協力により、同センターとクリニカルシミュレーション教育は沖縄医療の特色の一つとして根づいたと考えております。この活動は、その後、オール沖縄の医師確保の活動につながり、現在も「沖縄県医療人育成事業」として継続されており、全国に誇るべき取り組みとなっています。

その後、琉球大学にて循環器・腎臓・神経内科を担当する教授として、地域で働く専門医の育成、医師会医学会への貢献、地域医療や医療計画等の取り組みにも関わさせていただきました。

琉球大学病院長に就任してからは、新病院建設という大きな課題に直面しました。当時の安里哲好会長から多大なご支援と助言をいただき、無事に目的を果たすことができましたことは感謝に堪えません。また、同職に伴い理事として学術、医師確保、医師会医学会の分野を中心に活動させていただきました。また、沖縄県医師会からの推薦で日本医師会病院委員会にも参加させていただきました。他県の先生方と課題を共有し、勉強させていただきました。また、同時に、全国医学部長病院長会議から推薦され

て、厚労省の地域医療構想の検討会の委員を務めました。この会議で出てきた厚生労働省の方針や各医療団体の考え方を沖縄に還元できたことは、貴重な経験となりました。

さらに、常任理事を拝命してからは活動の幅が広がり、さまざまな場面で責任ある立場で発言・行動する機会をいただきました。その後、田名毅新会長のもと、引き続き、沖縄県医師会の活動が発展するように、年長者として、提案

や助言を行うように努めて参りました。田名会長には琉球大学退職後に取り組んでいる北部基幹病院設立にもご支援をいただいております。

これからも沖縄県医師会とのご縁は続いてまいります。役員OBとして応援しつつ、私及び私が取り組んでいます北部基幹病院に関しましても、引き続きご指導・ご支援を賜れれば幸いです。ここに改めて、関係の皆様に深く感謝申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

